

日本アジア投資株式会社  
2023年3月期 期末  
決算補足資料

決算発表日:2023年5月15日

1. 総括	P3
2. 当期の実績(前期比較)	P4
3. 中期経営計画(数値)の進捗状況	P9
4. 中期経営計画(行動)の進捗状況	P14
5. 参考情報	P18

本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。

## ✓ 当期の実績(対前期比増減)

- 営業収益3,017百万円(25.2%増収)、親会社株主に帰属する当期純利益△269百万円(前期は49百万円の黒字)
- 国内外で未上場株式の売却が進捗、5件のプロジェクトの売却益(うち1件は前期売却)が寄与
- 株式売却損の発生・引当金の増加・プロジェクトからの損失により営業原価が増加し、赤字を計上

## ✓ 中期経営計画(数値計画)の進捗状況

- 2023年3月期の実績は、営業収益は計画を上回るが、親会社株主に帰属する当期純利益は819百万円の下振れ
- 2024年3月期の業績見込は、営業収益2,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益120百万円  
国内の未上場株式の売却益と物流施設や障がい者グループホームプロジェクトの売却益による黒字回復を見込むが、中期経営計画との比較では、親会社株主に帰属する当期純利益は730百万円の下振れ
- 計画未達の主因は、株式売却益の低迷。引当金の増加・プロジェクトの持分損失の増加も利益を下押し
- プロジェクトの売却は件数・金額ともに計画を上回るものの、他の下振れの全てを補うことが出来ず

## ✓ 中期経営計画(行動計画)の進捗状況

- フィナンシャル投資資産を売却した資金で、プロジェクト投資と戦略投資を行い、戦略投資の売却益を増加させる方針
- 2023年3月期は、プロジェクト投資の実行、戦略投資の実行、戦略投資先企業の株式売却を実現
- 2024年3月期は、戦略投資先を中心にハンズオン支援強化による売却益の増加、収益化の遅れているプロジェクトの収益改善、M&A仲介収益の増加を見込む

## 2. 当期の実績(前期比較)

ハイライト

P5

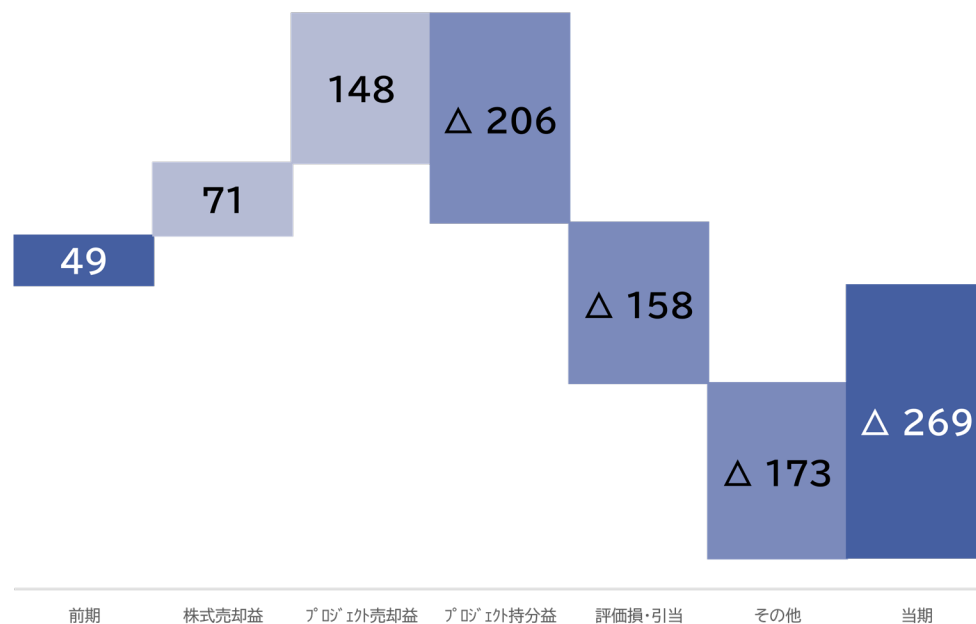
営業収益・営業原価内訳

P8

## 2. 当期の実績－ハイライト P/L

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	増減率
営業収益	2,409	<span style="color:red">↗</span> 3,017	25.2%
営業原価	1,133	<span style="color:red">↗</span> 2,056	81.4%
営業総利益	1,276	961	<span style="color:red">△24.6%</span>
販管費	1,189	1,147	<span style="color:red">△3.6%</span>
営業利益	86	<span style="color:red">△185</span>	-
経常利益	61	<span style="color:red">△224</span>	-
親会社株主に帰属する当期純利益	49	<span style="color:red">↘</span> <span style="color:red">△269</span>	-

親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因



✓ 増収要因:

株式売却高の増加:国内外で投資金額の比較的多額な未上場株式の売却が進捗

✓ 赤字要因:

- 営業原価の増加:株式売却損の発生、引当金の増加、プロジェクトの持分損失の増加による
- 株式の売却益やプロジェクトの売却益は前期比増加したものの、営業原価の増加を補えず

## 2. 当期の実績－ハイライト B/S

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	増減率	主な増減要因(単位:億円)
総資産	14,972	13,413	△10.4%	
うち 現預金	2,740	↓ 2,464	△10.1%	返済△8、投融資△29、費用等△9、回収+43
うち プロジェクト投資(引当後) (営業投資有価証券・貸付金)	6,781	↓ 6,053	△10.7%	投融資実行+24、分配・売却等△30、引当△1
うち 戦略投資(引当後) (営業投資有価証券)	1,783	↓ 782	△56.1%	投資実行+2、売却△7 含み益△3、引当△2
うち フィナンシャル投資(引当後) (営業投資有価証券)	3,029	3,301	9.0%	投資実行+6、分配・売却等△8 含み益+3、引当金の減少+1
借入金	5,943	↓ 5,142	△13.5%	返済△8
自己資本	7,779	↓ 7,518	△3.4%	損失△2.7

- ✓ プロジェクト投資資産・戦略投資資産が減少。投資回収が投資実行を上回る
- ✓ 借入金は返済により減少。将来の成長に向けた投資資金を確保した上で、適切な水準まで返済する方針
- ✓ 自己資本は損失計上により減少

## 2. 当期の実績－ハイライト C/F

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるCF	△145	 157
投資活動によるCF	212	0
財務活動によるCF	△1,007	 △806
CF増減額	△903	△635
期末残高	2,397	1,762

- ✓ 営業CF: 投資回収の進捗に伴い、黒字転換
- ✓ 財務CF: 借入金の返済額が減少し、支出額が縮小

## 2. 当期の実績－営業収益・営業原価 内訳

(単位:百万円)	合計		プライベートエクイティ投資		プロジェクト投資	
	2022年3期	2023年3期	2022年3期	2023年3期	2022年3期	2023年3期
営業収益	2,409	3,017	1,235	↑ 2,076	1,174	↓ 941
管理運営報酬等	154	134	146	126	7	7
営業投資有価証券売却高	1,573	2,057	915	↑ 1,907	657	↓ 149
組合持分利益・インカム イ等	631	781	162	35	469	↑ 746
その他営業収益	50	44	10	5	40	38
営業原価	1,133	2,056	483	1,503	650	552
営業投資有価証券売却原価	810	1,311	300	↑ 1,221	509	90
営業投資有価証券評価損・ 投資損失引当金繰入額	145	304	145	↑ 229	-	75
組合持分損失等	167	426	33	49	134	↑ 377
その他営業原価	10	12	3	3	7	9
営業総利益	1,276	961	752	↓ 572	523	↓ 389

### ✓ プライベートエクイティ投資:増収・減益

- 営業収益(売却高):国内で上場株式の売却が進捗、国内外で投資金額が比較的多額な未上場株式の売却が利益を伴い進捗
- 営業原価(売却原価):業況が悪化した投資先企業や回収見込額が低下した投資先企業の一部を売却し、売却損が発生
- 営業原価(評価損・引当金):投資金額が比較的多額な投資先企業で、事業の進捗に遅れが発生

### ✓ プロジェクト投資:減収・減益

- 営業収益(売却高):売却件数が減少(前期:メガソーラー1件・物流施設一部売却1件、当期:メガソーラー1件)
- 営業収益(組合持分利益・インカム イ等):4件の売却益が寄与(物流施設2件、高齢者施設1件、商業施設1件)
- 営業原価(組合持分損失等):植物工場やバイオガス発電プロジェクトの損失や、新規プロジェクトの立上げに伴うコストが増加



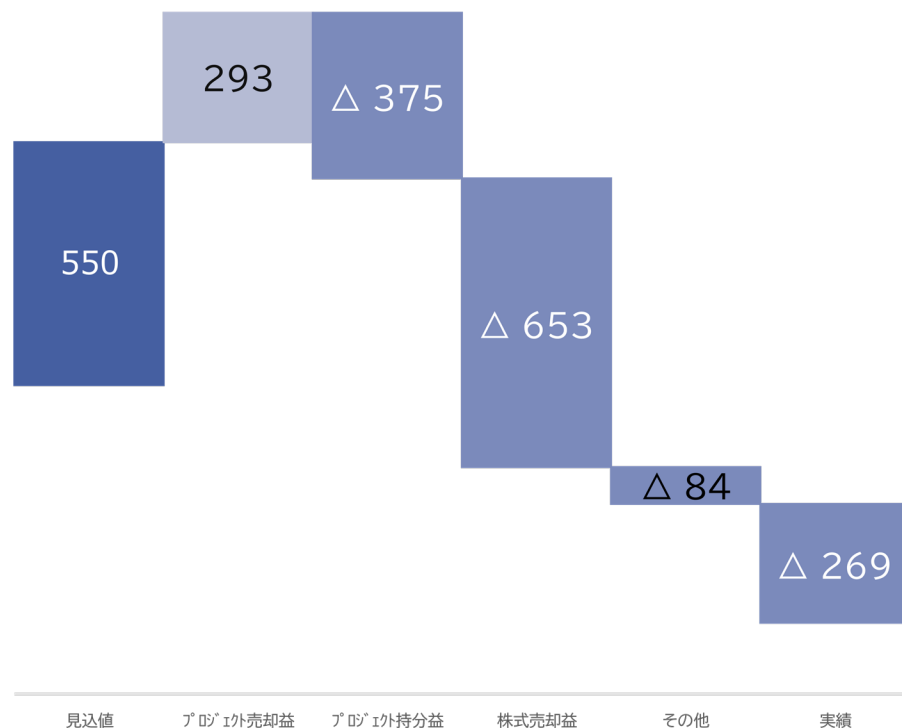
### 3. 中期経営計画(数値)の進捗状況

2023年3月期の進捗状況	P10
2024年3月期の業績見込値	P11
3年間の計画進捗状況	P12
将来情報についてのご注意	P13

### 3. 中期経営計画(数値)の進捗状況－2023年3月期実績

単位:百万円	期初見込 (2022年5月発表)	2023年3月期 実績	期初見込 達成率
営業収益	3,000	<span style="color:red">↑</span> 3,017	100.6%
営業原価	1,050	<span style="color:red">↑</span> 2,056	195.8%
営業総利益	1,950	961	49.3%
販管費	1,200	1,147	95.6%
営業利益	750	<span style="color:red">△185</span>	-
経常利益	650	<span style="color:red">△224</span>	-
親会社株主に帰属する当期純利益	550	<span style="color:red">↓</span> <span style="color:red">△269</span>	-
ROE	6.3%	<span style="color:red">△3.5%</span>	-

親会社株主に帰属する当期純利益の見込・実績差異



- ✓ 営業収益は計画を100.6%達成したが、利益は計画未達
- ✓ 利益の計画未達要因:
  - 株式売却益の未達: 売却時期の遅延、売却株価の低迷、売却損の発生
  - プロジェクト持分益の未達: 事業進捗が遅延しているプロジェクトや新規プロジェクトからの損失が増加
  - プロジェクト売却益は計画を上回る実績となるも、株式売却益とプロジェクト持分益の未達を補うことができず

### 3. 中期経営計画(数値)の進捗状況－2024年3月期の業績見込値



(単位:百万円)	2023/3期 実績	2024/3期 通期見込	増減率
営業収益	3,017	2,300	△23.8%
営業原価	2,056	1,000	△51.4%
営業総利益	961	1,300	35.1%
販管費	1,147	1,100	△4.1%
営業利益	△185	200	-
経常利益	△224	120	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△269	120	-
ROE	△3.5%	1.6%	-

2024/3期 2Q累計見込
525
325
200
570
△370
△410
△410
-

営業収益内訳:  
営業投資有価証券売却高:  
1,470  
プロジェクト売却益:  
580  
その他:  
250

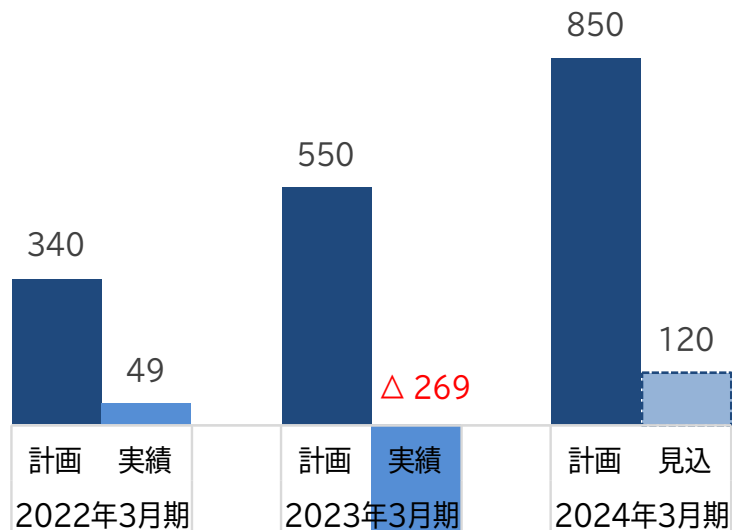
営業原価内訳:  
営業投資有価証券売却原価:  
400  
評価損・引当金繰入額:  
430  
組合持分損失等:  
160  
その他:  
10

- ✓ 前期実績比23.8%減収するものの、120百万円の黒字回復を見込む
- ✓ 減収要因:株式売却高の減少に伴い減収となる見込み
- ✓ 黒字回復要因
  - 株式の売却損は見込まず売却銘柄の利益率が高まる見込み
  - 黒字化が遅れているプロジェクトの収益改善に伴い、持分損失が減少する見込み
- ✓ 評価損や引当繰入は保守的に増加を見込む
- ✓ 第3四半期までは赤字の見込み、利益の大半は第3四半期・第4四半期に発生する見込み

### 3. 中期経営計画(数値)の進捗状況－3年間の進捗状況

親会社株主に帰属する当期利益

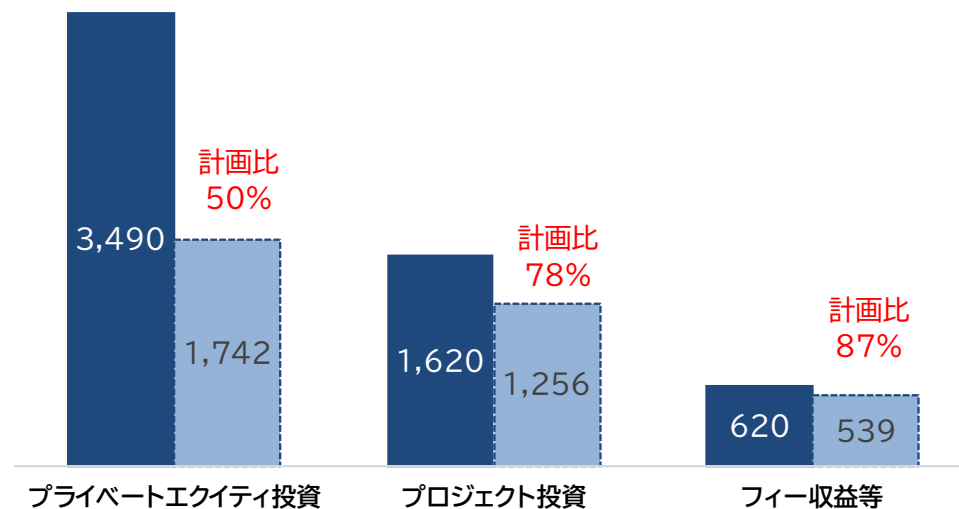
単位:百万円



3年間累計営業総利益の内訳

単位:百万円

■ 3年間累計 計画 ■ 3年間累計 実績+見込



- ✓ 親会社株主に帰属する当期利益の実績・見込は、3年とも計画から下振れの見込み
- ✓ 下振れ要因は、営業総利益の段階で発生
  - プライベートエクイティ:売却益の未達と引当金の超過により、中期経営計画期間3年間の累計営業総利益は、計画比50%の見込み
  - プロジェクト:売却益は計画を上回るが黒字化が遅れているものがあり、計画比78%の見込み
  - フィー収益等:M&A仲介が案件化できず、計画比87%の見込み

- ✓ 業績予想につきましては、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。
- ✓ しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、ある一定の前提を元に策定した「従来連結基準による見込値」を、数値の確度は低いものの、参考情報として開示しております。
- ✓ なお、当該「従来連結基準による見込値」をはじめとする本資料に掲載されている全ての将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の数値は様々な要因により記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。

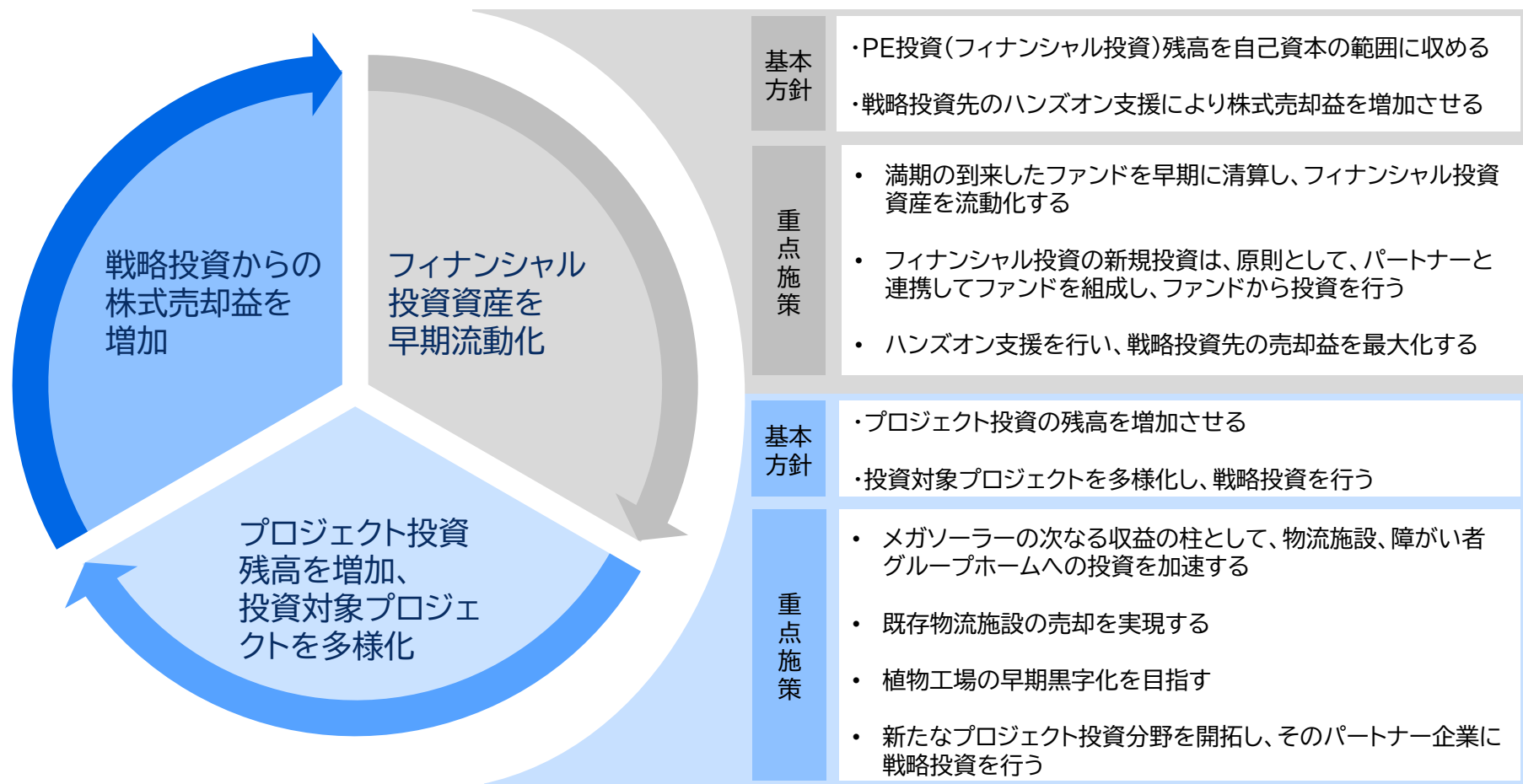
## 4. 中期経営計画(行動)の進捗状況

事業方針	P15
2023年3月期の進捗状況	P16
2024年3月期の課題と対策	P17

## 4. 中期経営計画(行動)の進捗状況－事業方針

事業方針

- ✓ 既存のプライベートエクイティ(PE)投資(フィナンシャル投資)資産を売却し、利益・資金を確保する
- ✓ 新たな投資方針に基づき、プロジェクト投資の残高を増加させる
- ✓ プロジェクト投資での協業を通じたハンズオン型の投資スタイルを確立し、戦略投資からの株式売却益を増加させる



## 4. 中期経営計画(行動)の進捗状況－2023年3月期の進捗状況

	計画期間(3年間)の行動計画	2023年3月期の進捗状況
プライベート エクイティ投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 既存資産を流動化し資産の入替を完了</li> <li>✓ 3本の新規ファンドを組成</li> <li>✓ 既存戦略投資先のExit支援、新規分野で戦略投資の実行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 投資先企業の㈱ティムスが2022年11月IPO</li> <li>✓ 事業承継を支援する第2号ファンドを設立・増額</li> <li>✓ 戦略投資先1件をM&amp;AでExit、2件の戦略投資を実行</li> </ul>
再生可能 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ベトナムの屋根置きソーラー、国内のバイオガスへの投資を拡大</li> <li>✓ 国内メガソーラーは完成後に順次売却し売却益を計上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 物流施設屋上の蓄電池付太陽光発電システムに投資実行</li> <li>✓ 三重県のNON-FIT型バイオマス発電に投資実行</li> <li>✓ メガソーラー発電所は、1件を売却、1件が売電開始</li> </ul>
スマートアグリ (植物工場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大手コンビニを軸に販売先を開拓し、4号工場まで事業規模を拡大する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大手コンビニ等への販路を拡大、コストの価格転嫁が進捗</li> <li>✓ 戦略投資先企業のモーベルファームが兵庫県養父市の植物工場運営会社の経営を承継、当社投資案件含め3棟目</li> </ul>
ディストリビューショ ンセンター (物流施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 重点分野として投資残高を増加</li> <li>✓ プロジェクトの初期段階に投資し採算性を向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2件のプロジェクトに追加投資を実行</li> <li>✓ 前期に売却した施設の利益配当を計上</li> <li>✓ 埼玉県日高市の施設を売却し、利益配当を計上</li> </ul>
ヘルスケア (高齢者施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>案件を厳選して投資を実行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 港区南青山の施設を売却し、利益を計上</li> <li>✓ 江東区東雲・豊洲エリアの施設が竣工(23年4月)</li> </ul>
ヘルスケア (障がい者グループ ホーム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大手銀行、リース会社とのファンド組成により50棟に投資を実行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自社開発案件3件が竣工、竣工拠点が累計10件まで拡大</li> <li>✓ リース会社等と組成したファンドからの投資実行が5拠点まで拡大、うち2拠点が竣工</li> </ul>
新規事業開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存投資テーマの周辺分野、及びコロナ禍に対応した事業テーマから将来の収益の柱となる新規事業を開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 電動アシスト自転車、樹木葬のプロジェクトに投資実行</li> <li>✓ 3件のエンタテインメントコンテンツへ投資実行</li> <li>✓ 神奈川県藤沢市のシェアアトリエ施設が竣工(23年4月)</li> </ul>
M&A仲介	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外のパートナーと連携し、パイプラインを積み上げ収益を拡大する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 23年2月㈱アジアマーケット企画を子会社化し、案件開発の間口を拡大</li> </ul>



## 4. 中期経営計画(行動)の進捗状況－2024年3月期の課題と対策

	残る課題	対策
プライベート エクイティ投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ IPOや大口先の未上場株式の売却益が計画から下振れ</li> <li>✓ 事業進捗が遅れている投資先企業への引当金が発生</li> </ul>	戦略投資先を中心にハンズオン支援を強化する
再生可能 エネルギー	国内バイオガス事業で、発電原料となる廃棄物の収集量が計画を下回り、発電所の安定稼働と黒字化が遅れている	食品メーカー・食品スーパーなどを紹介し収集量の増加策を支援、その効果で収集量と発電量は増加傾向
スマートアグリ (植物工場)	丹波篠山工場の生産量が計画を下回り黒字化が遅れている	生産体制改善策を支援し生産量は増加傾向、戦略投資先の植物工場取得を支援し運営コストの削減を見込む
M&A仲介	社内のリソース不足などから、案件化に至らず	子会社化したアジアンマーケット企画のリソースを活用する

事業進捗の事例紹介	P19
再生可能エネルギープロジェクト一覧	P27
プロジェクト投資 案件一覧	P28
戦略投資先企業一覧	P32
アジアネットワーク	P33
主要データの推移	P34
営業収益・営業原価 内訳	P36
投資領域	P37
収益構造	P38
JAICの強み	P40
SDGsへの取り組み	P41
会社概要	P42

8

働きがいも  
経済成長も

9

産業と技術革新の  
基盤をつくらう

## 事業承継支援の第2号ファンドを設立・増額

名称	サクセッション2号投資事業有限責任組合
設立日	2022年8月16日
無限責任組合員	AJキャピタル(株) (当社と(株)あおぞら銀行が50%ずつ出資する合弁会社)
ファンド総額	3,701百万円 (2023年2月 増額時点)
有限責任組合員(50音順)	あおぞら銀行、愛媛銀行、鹿児島銀行、岐阜商工信用組合、京葉銀行、 荘内銀行、東和銀行、鳥取銀行、日本アジア投資、北都銀行、ゆうちょ銀行
主な投資対象	日本国内の事業承継問題を抱える中小企業

- ✓ 当社とあおぞら銀行の合弁会社AJキャピタルが運営する、国内中小企業の事業承継支援ファンド
- ✓ 地域金融機関を出資者に迎え、22年12月に9億円、23年2月に10億円増額、今後ファンド総額40億円以上を予定
- ✓ 主にスモールキャップゾーンを投資対象とし、全国の地域金融機関と連携して、取引先中小企業の円滑な事業承継を目指す

# 事業進捗の事例紹介－再生可能エネルギー

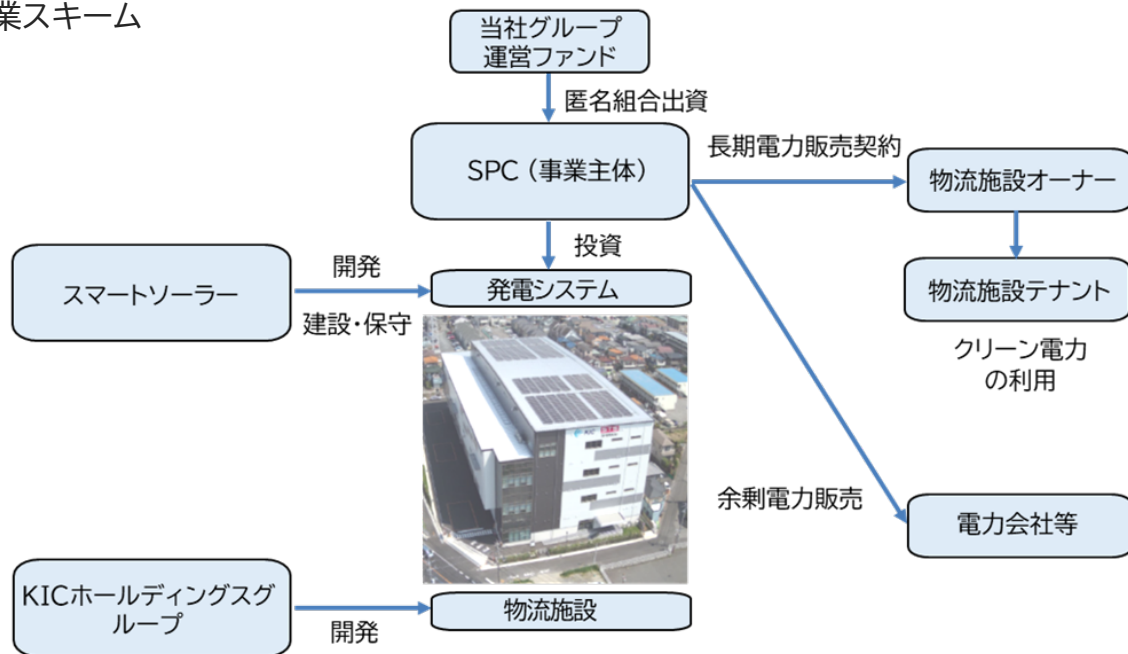
## 物流施設屋上の蓄電池付き太陽光発電システム3件が始動

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

8 働きがいも  
経済成長も

9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう

### 事業スキーム



戦略投資先  
KICホールディングス(株)



戦略投資先  
スマートソーラー(株)

- ✓ 当社の戦略投資先であるKICホールディングスが開発した物流施設の屋上に、同じく戦略投資先であるスマートソーラーが開発した蓄電池付き太陽光発電システムを設置
- ✓ 屋上に設置する太陽光パネルと、蓄電池、商用電源を複合的・効率的に運用
- ✓ 施設の利用電力の一部を太陽光で賄う、低環境負荷型の物流施設
- ✓ 施設の利用者は発電したグリーン電力を安価に消費可能、停電時には自立した非常用電源としても機能
- ✓ 当社の戦略投資先企業同士で協業が成功した事例

# 事業進捗の事例紹介－再生可能エネルギー

## 三重県松阪市のNON－FIT型バイオマス発電プロジェクトに投資実行

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

12 つくる責任  
つかう責任



運営会社	パワーエイド三重合同会社
代表社員	バイオマスパワーテクノロジーズ(株)
会社URL	<a href="https://www.power-aid-group.co.jp/">https://www.power-aid-group.co.jp/</a>
発電所所在地	三重県松阪市木の郷町24番地（ウッドピア松阪内）
出資者	日本アジア投資(株)、(株)長谷工コーポレーション、(株)BMエコモ、(株)レクスポート、JA三井リース(株)
社員	三重エネウッド(株)、大成産業(有)、(株)松田石油、ホクト(株)、RE諏訪湖(株)、バイオマスパワーテクノロジーズ(株)
発電規模	1990kW(※タクマ製ハイブリッド燃焼対応型トラベリングストーカ式ボイラを採用)
年間想定発電量	約1647万kWh（想定送電量:約1515万kWh）
商業運転開始	2025年1月(予定)
総事業費	約26億円(税込)※(株)日本格付研究所より、格付最高位であるGreen1のグリーンローン評価を受けた長期借入金にて調達しています。
融資参加金融機関	(株)みずほ銀行をアレンジャーとする9行でのシンジケートローン

- ✓ 三重県松阪市で、パワーエイド三重合同会社が建設・運営する「パワーエイド三重シン・バイオマス™松阪発電所」に出資
- ✓ 三重県多気町に所在するホクト(株)の「三重きのこセンター」から排出される廃菌床(使用済み培地)や、主に中部圏から排出されるリサイクル木材チップおよびプラスチック系資源を発電燃料とする
- ✓ 発電された電力は、15年間にわたり燃料サプライヤーであるホクト(株)に対して供給される予定
- ✓ 多気町の廃棄物処理業務の負担を低減しつつ、地域における資源・エネルギー循環経済の構築に貢献



## 事業進捗の事例紹介—スマートアグリ

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

### 戦略投資先企業のモーベルファームによる 兵庫県養父市の植物工場運営会社の経営承継



- ✓ 当社の戦略投資先であるモーベルファームは、兵庫県丹波篠山市で植物工場を運営するパートナー企業
- ✓ 2023年2月、モーベルファームが、兵庫県養父市の植物工場(養父工場)を運営する企業の発行済全株式を取得して経営を承継、モーベルの工場産葉物野菜の生産能力は年間約470トンから約540トンに拡大
- ✓ 養父工場では約3,000株/日(65~70トン/年)のフリルレタス等の葉物野菜を生産、「Lovege(ラベージ)」ブランドで食品宅配会社やスーパーマーケット等に販売
- ✓ 今後は丹波篠山工場で培ったノウハウを養父工場の運営に活用し、工場設備の一部入替、生産方法の改善、歩留率の改善などにより、養父工場の生産規模拡大と品質向上を計画
- ✓ 2つの工場を一体で運営することによる、物流の効率化や共同資材調達によるコストの削減、既存顧客への販売増加等の各種相乗効果も見込む

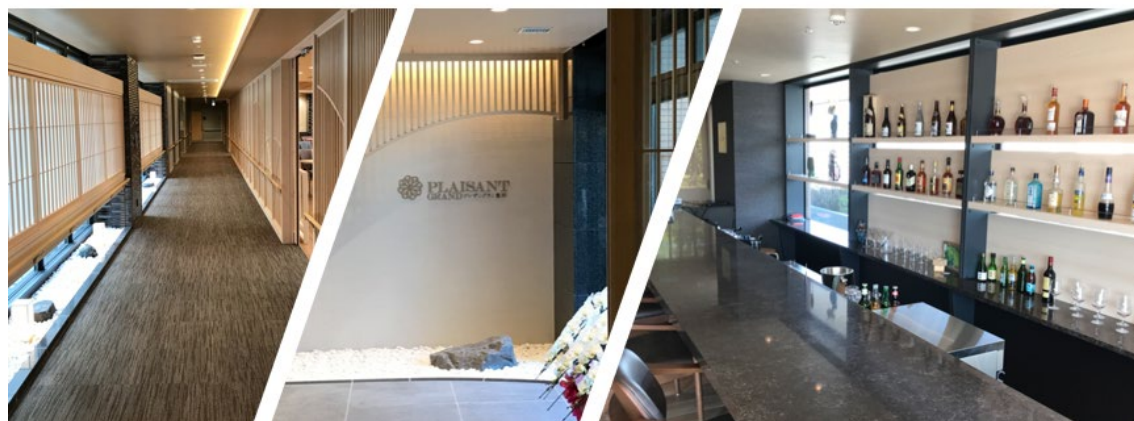
# 事業進捗の事例紹介ーヘルスケアー高齢者施設



## 東京都江東区東雲一丁目の大規模複合型高齢者施設 「AIP25豊洲ビル」において 介護付老人ホーム「プレザングラン豊洲」が竣工・開所



パートナー企業：  
AIPヘルスケア  
ジャパン合同会社



施設名	AIP25豊洲ビル
最寄り駅	東京臨海高速鉄道りんかい線「東雲」駅 徒歩11分 東京メトロ有楽町線「豊洲」駅 徒歩13分
物件概要	敷地面積:2,792.17㎡ 構造:鉄筋コンクリート造 地上9階 地下1階建 1-2階 食品スーパー(東武ストア東雲店) 3階 バイリンガル幼稚園 (Kids Duo International 東雲) 4階 医療モール(内科・神経内科等) 5-9階 介護付老人ホーム (プレザングラン豊洲:定員100名)
投資実行	2020年2月
竣工	2023年4月(プレザングラン豊洲の竣工)

# 事業進捗の事例紹介－障がい者グループホーム



## 地域金融機関との連携強化により竣工拠点は10件まで拡大



### グループホーム拠点

- ① 静岡浜松市
- ② 広島広島市
- ③ 栃木宇都宮市
- ④ 埼玉加須市
- ⑤ 栃木佐野市
- ⑥ 茨城古河市
- ⑦ 群馬館林市
- ⑧ 香川香川町
- ⑨ 群馬太田市
- ⑩ 群馬桐生市



パートナー企業：  
ソーシャルインクルー(株)



# 事業進捗の事例紹介－新規事業開発

8

働きがいも  
経済成長も

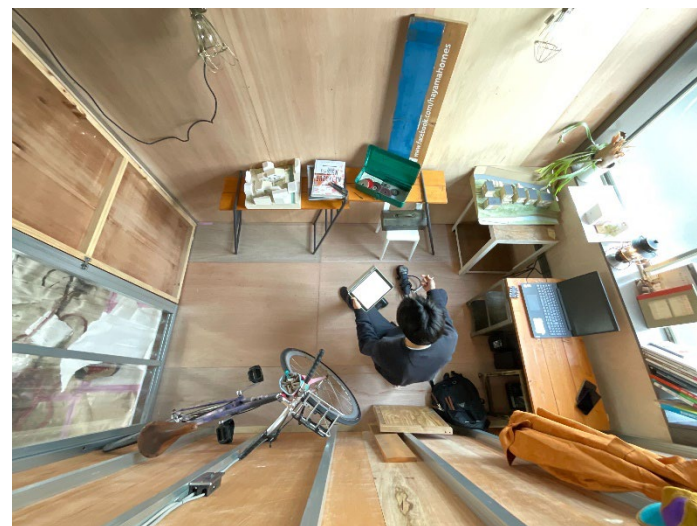
11

住み続けられる  
まちづくりを

## 神奈川県藤沢市に創作活動を楽しむ人向けのシェア施設 「KIKI BASE FUJISAWA」が竣工



パートナー企業：  
(株)エンジョイワークス



- ✓ 2023年4月、神奈川県藤沢市の元工場をリノベーションし、創作活動を楽しむためのシェア施設として再生
- ✓ 工具の使用や、音の出る作業も可能など、元工場ならではの利点を活用
- ✓ クリエイター、アーティスト、フリーランス、副業、趣味など、創作活動を行う幅広いユーザー向けの施設
- ✓ パートナー企業のエンジョイワークスは、創業以来15年に亘り、地域の住民や事業者、地域金融機関や自治体と連携して、特徴のある様々な不動産開発・再生プロジェクトで実績

8

働きがいも  
経済成長も

## (株)アジアマーケット企画の子会社化

名 称	株式会社アジアマーケット企画
代 表 者	代表取締役社長 木林 靖治
事 業 内 容	クロスボーダーを含むM&Aアドバイザリー業務ならびにフルコミット型のアセアン進出支援および企業経営全般のコンサルティング
資 本 金	1,100万円
設 立 年 月 日	2012年4月11日
株 主	当社(80%)、木林 靖治(20%)



Asian Market Planning

株式会社 アジアンマーケット企画

- ✓ アジアンマーケット企画は、地域金融機関とのネットワークを強みとして、これを広く活用し、M&Aのアドバイザリー業務やアジアへの事業進出の支援などを行うコンサルティング企業
- ✓ 当社はこれまでも、アジアでのネットワーク構築やファンド組成の分野で同社と連携
- ✓ 子会社化によりネットワークや知見を当社グループに取り込み、今後は投資案件の開拓の過程だけでなく広範に M&A や海外進出のニーズを捉え、フィー収入を増加させる方針
- ✓ さらに、同社の地域金融機関とのネットワークを活用して、プロジェクト投資を更に拡大する方針

## 再生可能エネルギープロジェクト一覧 (2023年3月末)

## メガソーラープロジェクト

売電中 10件(12発電所) 24.7MW

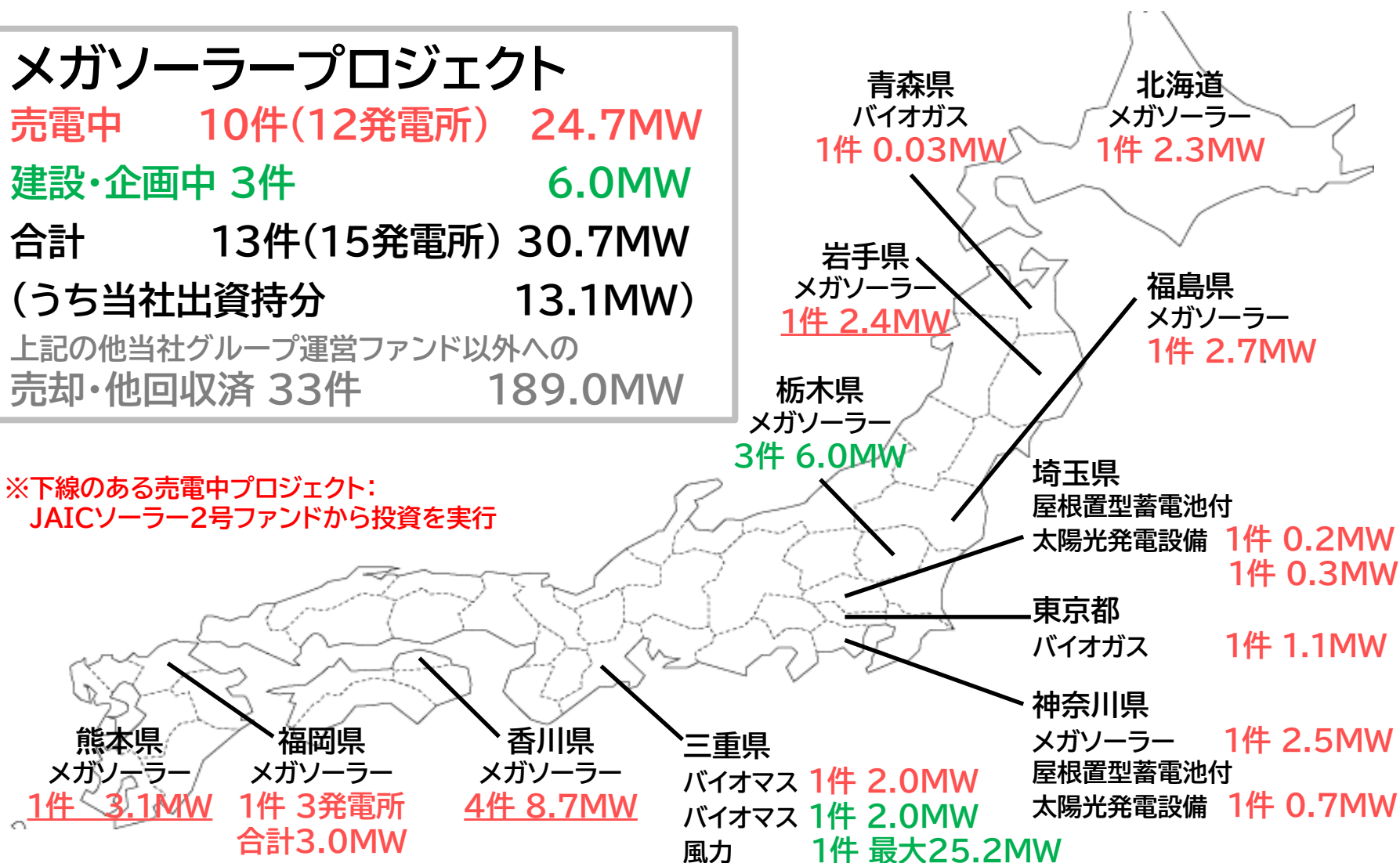
建設・企画 3件 6.0MW

合計 13件(15発電所) 30.7MW

(うち当社出資持分 13.1MW)

上記の他当社グループ運営ファンド以外への  
売却・他回収済 33件 189.0MW

※下線のある売電中プロジェクト:  
JAICソーラー2号ファンドから投資を実行



※各プロジェクトに対する当社の出資比率はプロジェクト毎に異なるため、当社の投資額や当社に帰属する売電収益の金額は、必ずしもプロジェクトのMW数に連動しておりません。

## プロジェクト投資 案件一覧-1 (2023年3月末)

プロジェクト種類		発電所名/所在地	発電容量 (MW)	プロジェクト進捗状況	FIT (税抜、円)
メガソーラー 発電	1	熊本県球磨郡錦町(※)	3.1	売電中 (2015年12月売電開始)	40
	2	野間池ソーラー発電所(※)	2.4	売電中 (2017年5月売電開始)	36
	3	御田神辺池ソーラー発電所(※)	1.5	売電中 (2017年9月売電開始)	32
	4	岩手一関ソーラーパーク(※)	2.4	売電中 (2018年1月売電開始)	36
	5	中王田池ソーラー発電所(※)	2.4	売電中 (2018年4月売電開始)	36
	6	東王田池ソーラー発電所(※)	2.4	売電中 (2018年7月売電開始)	36
	7	広野ソーラーパーク	2.7	売電中 (2020年2月売電開始)	40
	8	厚岸ルークシュポール太陽光発電所	2.3	売電中 (2020年5月売電開始)	40
	9	赤田太陽光発電所	2.5	売電中 (2023年3月売電開始)	32
	10	うきは市しらかべ太陽光発電所、 うきは市みずのさと太陽光発電所、 うきは市みのうアルプス太陽光発電所	合計3.0	売電中 (2020年3月～5月売電開始)	36
	11	栃木県	2.0	企画中	36
	12	栃木県	2.0	企画中	32
	13	栃木県	2.0	企画中	32
合計 30.7 MW (うち当社出資持分 13.1 MW)					

※：JAICソーラー2号投資事業有限責任組合から投資しているプロジェクト。

## プロジェクト投資 案件一覧-2 (2023年3月末)

プロジェクト種類		所在地	発電容量 (MW)	プロジェクト進捗状況	FIT(税抜、円)
屋根置型蓄電池付太陽光発電設備	1	埼玉県越谷市	0.2	売電中(2022年12月売電開始)	—
	2	埼玉県日高市	0.3	売電中(2023年2月売電開始)	—
	3	神奈川県厚木市	0.7	売電中(2023年2月売電開始)	—
バイオマス発電	1	三重県松阪市	2.0	売電中 (2018年1月売電開始)	—
	2	三重県松阪市	2.0	企画中	—
バイオガス発電	1	東京都羽村市	1.1	売電中 (2021年3月売電開始)	39
	2			バイオガスを生成する食品リサイクル会社 (バイオガス発電所オペレーター)	—
	3	青森県上北郡東北町	0.03	売電中 (2018年11月売電開始)	39
風力発電		三重県	最大25.2	企画中	22

## プロジェクト投資 案件一覧-3 (2023年3月末)

プロジェクト種類		所在地	規模	プロジェクト進捗状況
高齢者施設	1	東京都江東区東雲	8階建複合施設 定員100名	営業準備中(2023年4月営業開始)
障がい者グループホーム	1	静岡県浜松市	入居者用20部屋、短期入所用2部屋	営業中(2020年8月営業開始)
	2	広島県広島市	同上	営業中(2020年8月営業開始)
	3	栃木県宇都宮市	同上	営業中(2021年9月営業開始)
	4	埼玉県加須市	同上	2022年2月完成 (2023年5月営業開始予定)
	5	栃木県佐野市	同上	営業中(2022年9月営業開始)
	6	茨城県古河市	同上	営業中(2022年10月営業開始)
	7	群馬県館林市	同上	2022年3月完成 (2023年6月営業開始予定)
	8	香川県高松市	同上	営業中(2022年9月営業開始)
	9	群馬県太田市	同上	営業中(2022年10月営業開始)
	10	群馬県桐生市	同上	営業中(2023年3月営業開始)
	11	埼玉県川越市	同上	建設中
	12	埼玉県鴻巣市	同上	建設中
	13	福島県いわき市	同上	建設中
	14	香川県東かがわ市	同上	建設中



## プロジェクト投資 案件一覧-4 (2023年3月末)

プロジェクト種類		所在地	規模	プロジェクト進捗状況
植物工場		兵庫県丹波篠山市	年間生産量 合計約470t	1号工場 2019年3月稼働 2号工場 2022年8月全面稼働
物流施設	1	神奈川県厚木市	延床面積 10,370㎡、地上3階建	営業準備中(2022年10月竣工)
	2	神奈川県海老名市	未定	建設・企画中
	3	東京都あきる野市	延床面積 25,804㎡(予定)、地上4階建	建設・企画中
	4	非公開	非公開	建設・企画中
	5	非公開	非公開	建設・企画中

プロジェクト種類		所在地	内容	プロジェクト進捗状況
その他	1	—	体験型アート展「Naked Flowers For You」	2022年3月より有楽町マルイ8階で開催中
	2	神奈川県藤沢市	元工場をリノベーションしたシェアアトリエプロジェクト	営業準備中(2023年4月営業開始)
	3	—	電動アシスト自転車のサブスクリプションプロジェクト	2022年8月初回投資実行
	4	非公開	非公開	非公開
	5	非公開	樹木葬プロジェクト	非公開
	6	韓国	日本アニメの展示会	2023年7月から10月に開催予定

# 戦略投資先企業一覧



リニューアブル・ジャパン株式会社

メガソーラープロジェクトの  
パートナー企業

2021年12月22日 東証マザーズ上場



スマートソーラー株式会社

メガソーラープロジェクトの  
パートナー企業



ソーシャルインクルー株式会社

障がい者グループホームプロジェクト  
のパートナー企業

2022年11月 M&Aにより売却



株式会社森久エンジニアリング  
株式会社モーベルファーム  
(株)森久エンジニアリング子会社)

スマートアグリ(野菜)プロジェクトの  
パートナー企業



MD-Farm株式会社

スマートアグリ(イチゴ)プロジェクトの  
パートナー企業



KICホールディングス株式会社

ディストリビューションセンター  
(物流施設)投資のパートナー企業



株式会社366

永代供養型樹木葬プロジェクトの  
パートナー企業



サイクループ株式会社

電動アシスト自転車のサブスクリプション  
プロジェクトのパートナー企業



# アジアネットワーク

## 【瀋陽】（ファンド出資者）

- ・瀋陽市渾南新区市政府（協力協定先）
- ・瀋陽高新技术産業開発区
- ・瀋陽万科企業有限公司

## 【煙台】（提携先）

- ・煙台市政府（当社代表が新興産業国際顧問に就任）
- ・煙台市投資促進センター（協力協定先）
- ・煙台国豊投資控股集团有限公司（協力協定先）

## 【青島・山東半島藍色経済区】（提携先）

- ・藍色経済区産業ファンド（戦略的提携先）
- ・青島市政府（当社が国際投資促進顧問に就任）
- ・青島青松創業投資集团有限公司（協力協定先）

## 【青島】（協力先）

- ・中国青島（日本）商工センター

## 【成都】（提携先）

- ・成都高新技术産業開発区管理委員会（協力協定先）
- ・上海利旻文化科技發展有限公司（協力協定先）

## 【西安】（提携先）

- ・西安高新技术産業開発区（協力協定先）

## 【武漢】（提携先）

- ・武漢市商務局（協力協定先）

【瀋陽】（子会社）

【天津】（子会社）

【上海】（子会社）

【日本】  
（子会社）  
（株）アジアマーケット企画  
（提携先）  
AIS CAPITAL(株)

【香港】（株主・提携先）  
・ First Eastern Investment Group

【ハノイ・ホーチミン】  
・ Vietnam Maritime Commercial Joint Stock Bank（提携先）  
・（株）ワールド・リンク・ジャパン（協力先）

【バンコク】（提携先）  
・ KT Zmico Securities Company Limited  
・ VNET Venture Capital Management Securities Co.,Ltd.

【シンガポール・マレーシア・インドネシア】 協力先  
・ BA Partners Pte.Ltd.（当社OB運営会社）  
・ Lingua Franca Holdings Pte.Ltd.（当社OB運営会社）

## 主要データの推移 ①

### ・ファンドの状況、投資の状況

(単位:百万円)	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期
ファンド設立・増加額	1,000	2,000	1,359	151	1,001	3,701
ファンド運用残高 ※1	19,150	16,494	17,390	16,450	16,463	15,850
うち 当社グループ出資額 ※1	5,867	5,344	5,163	5,434	4,953	3,389
投資/融資実行額 総額 ※2	3,887	3,749	3,374	1,767	3,420	3,561
投資/融資残高 総額 ※2	13,981	13,951	15,101	12,855	13,784	14,133
投資/融資実行額 プロジェクト投資※2	2,681	3,612	2,150	1,445	1,938	2,152
投資/融資残高 プロジェクト投資※2	3,582	5,514	6,696	6,088	6,344	7,123
投資/融資実行額 プライベートエクイティ投資※2	1,205	136	1,224	322	1,482	1,408
投資/融資残高 プライベートエクイティ投資※2	10,398	8,437	8,405	6,767	7,440	7,010

※1 投資資産を保有した状態で清算期間に入るファンドが増加したため、2021年3月期より、清算期間中のファンドを含めています。

※2 当社グループによるプロジェクトに対する融資実行が増加したため、2021年3月期より、プロジェクトに対する融資（破産更生債権等を除く）を含めています。

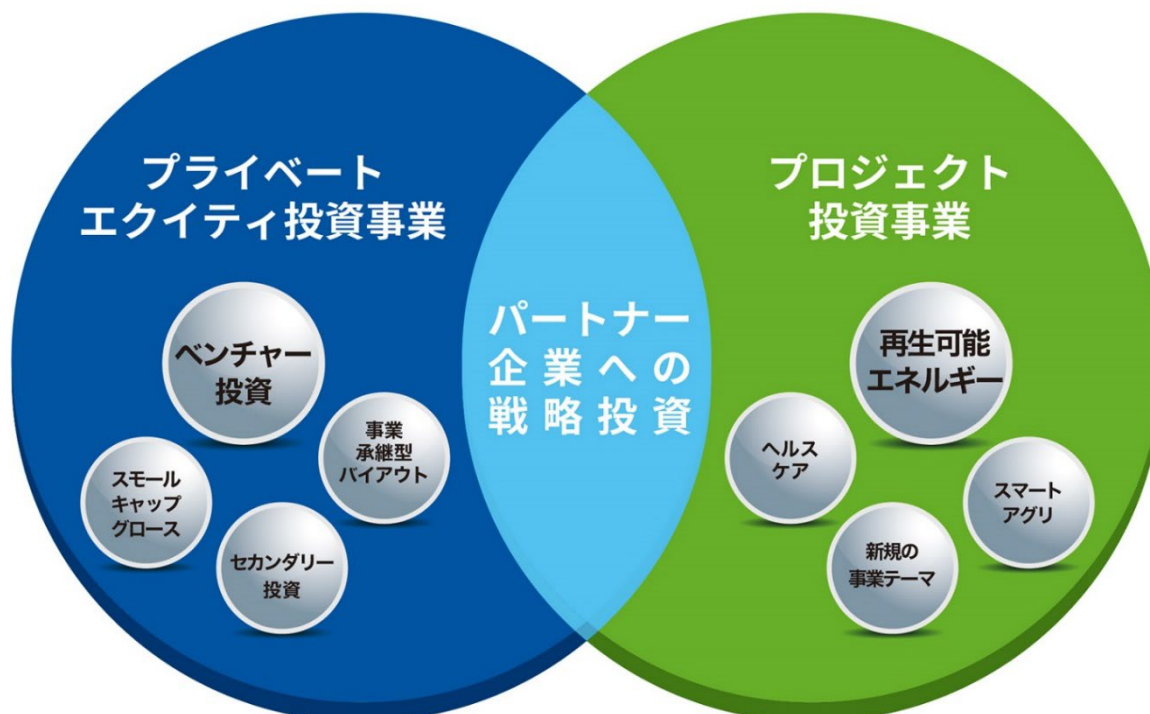
## 主要データの推移 ②

### ・業績、財務状況

(単位:百万円)	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期
<b>業績</b>						
営業収益	5,403	2,475	2,760	3,089	2,409	3,017
営業総利益	2,328	1,286	1,359	1,301	1,276	961
販売費及び一般管理費	1,311	1,109	1,094	1,086	1,189	1,147
営業利益	1,017	177	265	214	86	△185
経常利益	954	83	140	173	61	△224
親会社株主に帰属する当期純利益	874	578	302	144	49	△269
<b>財務状況</b>						
現預金	7,308	5,564	3,920	3,699	2,740	2,464
引当後 営業投資有価証券・貸付金(プロジェクト投資)	3,582	5,514	5,437	5,583	6,781	6,053
引当後 営業投資有価証券(戦略投資投資)	373	373	1,005	1,155	1,783	782
引当後 営業投資有価証券(フィナンシャル投資)	5,657	4,765	4,282	3,111	3,029	3,301
借入金	11,954	9,784	8,166	6,950	5,943	5,142
自己資本	6,545	6,840	7,223	7,338	7,779	7,518
総資産	19,220	17,305	15,800	14,657	14,972	13,413

# 営業収益・営業原価 内訳

(単位:百万円)		18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	増減率(%)
1.	投資事業組合等管理業務							
	管理運営報酬等	277	241	199	169	154	134	△12.8%
	成功報酬	86	-	-	-	-	-	-
	営業収益	364	241	199	169	154	134	△12.8%
	営業原価	-	-	-	-	-	-	-
2.	投資業務							
	営業投資有価証券売却高	3,219	1,746	2,349	2,221	1,573	2,057	30.8%
	組合持分利益・インカムゲイン等	1,677	429	172	648	631	781	23.8%
	営業収益	4,897	2,176	2,521	2,870	2,204	2,839	28.8%
	営業投資有価証券売却原価	2,469	554	965	1,249	810	1,311	61.9%
	営業投資有価証券評価損・ 投資損失引当金繰入額	562	579	245	194	145	304	108.6%
	組合持分損失等	36	49	184	336	167	426	155.2%
	営業原価	3,069	1,182	1,395	1,780	1,123	2,043	81.9%
営業総利益	1,827	993	1,125	1,090	1,081	796	△26.4%	
3.	その他							
	営業収益	142	57	40	49	50	44	△13.5%
	営業原価	5	6	5	7	10	12	25.1%
	営業総利益	136	51	34	41	40	31	△23.4%
合計								
	連結営業収益	5,403	2,475	2,760	3,089	2,409	3,017	25.2%
	連結営業原価	3,074	1,188	1,401	1,788	1,133	2,056	81.4%
	連結営業総利益	2,328	1,286	1,359	1,301	1,276	961	△24.6%



## プライベートエクイティ投資

- 成長性の高いベンチャー企業やスモールキャップ企業、事業承継問題を抱える中小・中堅企業に対し成長資金を投資
- 投資後は、当社が日本とアジアに有するリソースを活用して、企業の成長戦略を支援

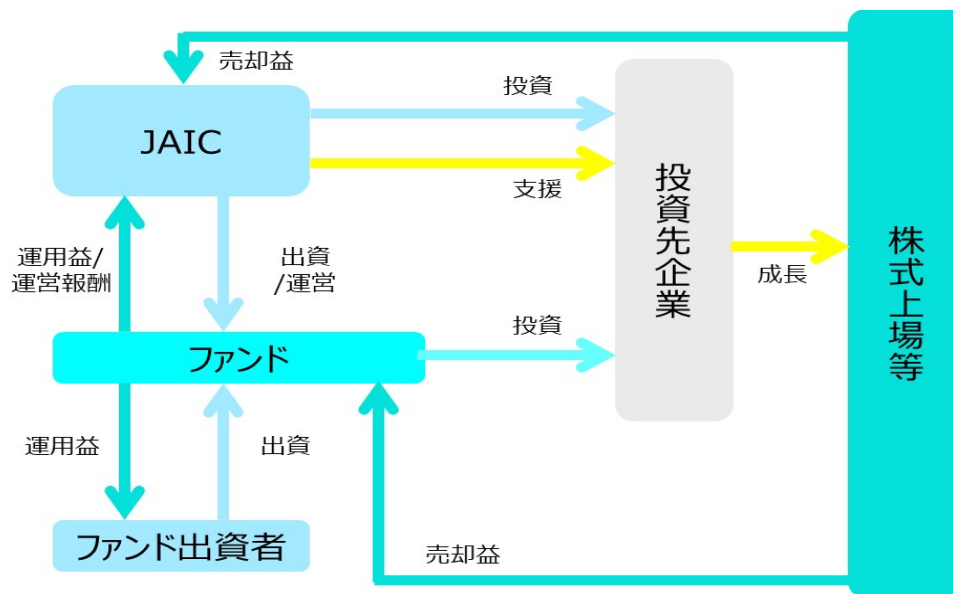
## 戦略投資

- 当社の注力する事業テーマに関連する企業に、戦略的な投資
- 投資後は、当社が事業上のパートナーとなり、事業での協業を通じて、資金支援や営業支援を実施

## プロジェクト投資

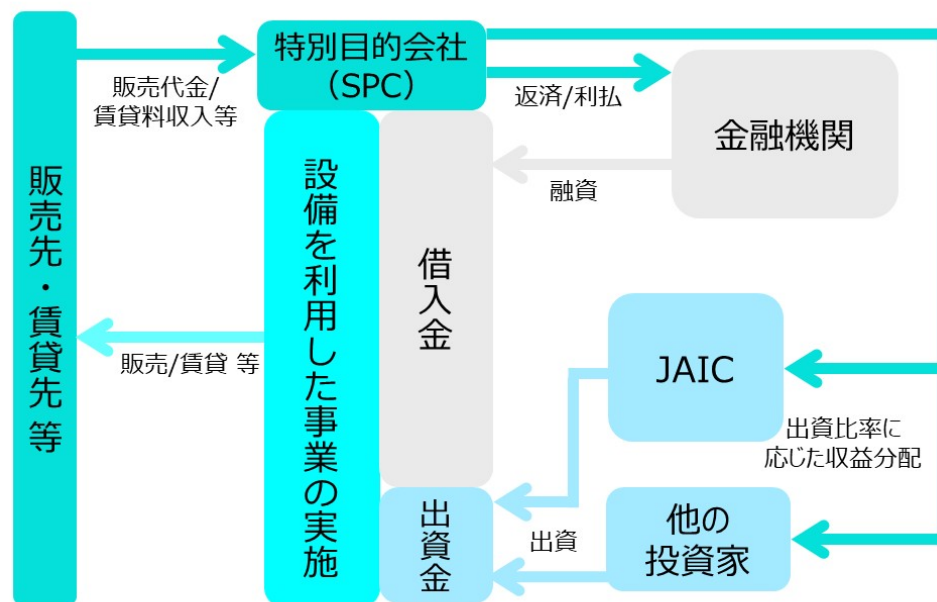
- メガソーラーなどの再生可能エネルギー、介護施設などのヘルスケア、植物工場などのスマートアグリ、物流施設、その他多様なプロジェクトに投資
- 原則として、プロジェクトファイナンスによる融資資金を活用し投資の採算性を追求

# 収益構造 - プライベートエクイティ投資



- ✓ 日本を含むアジア地域におけるベンチャー企業や中堅・中小企業等を中心とした有望企業へ投資し、育成・支援を通じて投資先企業の企業価値を高め、株式の売却益を得ることを目的とした投資活動の過程で得る企業のニーズを基にM&Aの仲介業務も行う
- ✓ プロジェクト投資のパートナー企業に対する「戦略投資」と、それ以外の「フィナンシャル投資」の2種類
- ✓ 戦略投資を行った企業には、株主としての支援だけではなく、パートナーとして共にプロジェクトを運営し、その成長を支援
- ✓ フィナンシャル投資の特徴は、長年の経験により蓄積された上場支援に加え、広いネットワークを活用した海外展開支援や営業支援を行う  
そのために、中国の政府系機関やアジア諸国のパートナー企業と業務提携などを行い、アジアのネットワークを構築

## 収益構造-プロジェクト投資



- ✓ 発電所、工場、住居施設、倉庫といった設備を保有するSPC(特別目的会社)に対して投資を行い、これらの設備を建設し、完成後の設備の運営により生み出される利益から投資に対する分配を受領  
完成後に設備を売却して利益を得る場合もある
- ✓ 再生可能エネルギー、ヘルスケア(高齢者向け施設、障がい者グループホーム)、スマートアグリ(植物工場)、ディストリビューションセンター(物流施設)等のプロジェクトへ投資
- ✓ プロジェクトの建設・運営にかかる資金の多くを金融機関からの負債性資金で調達することで、少額の投資資金で高い採算性を追及
- ✓ 多様な分野のプロジェクトに機動的に投資を行うために、プロジェクトの企画や開発に精通したベンチャー企業とパートナーシップを組んで取り組む



# JAICの強み

投資候補となる企業やプロジェクトの発掘を通じて、専門性の高い、業界の最先端の動向を把握

最先端の  
業界情報収集力

アジアでの歴史

1981年に経済同友会を母体に設立されて以来、35年に亘り日本とアジアの経済交流に貢献し、アジアでの高い知名度を有する

JAIC

ファイナンス  
スキーム構築力

ベンチャー企業との  
ネットワーク

- 国内外で3,300億円の累計投資実績
- プロジェクト投資事業では、当社からの投資資金だけでなく、プロジェクトファイナンスなどの融資資金も交えた調達スキームを構築

- 国内外で300社超の上場実績を有し、これまでの投資活動を通じて、多数のベンチャー企業と親密な関係を構築
- そのネットワークを、投資先企業の支援や、当社が新規事業テーマを開拓する際のアライアンスに活用



# SDGsへの取り組み

## SDGs投資会社である事を当社のコアバリューとし、 経営理念に基づきSDGsを強く意識した投資活動を徹底する

### Environment

再生可能  
エネルギー

プロジェクトのパートナー企業に投資をするとともに、プロジェクトへの投資を通じて環境負荷の軽減に貢献



### Social

スマート  
アグリ  
(植物工場)

プロジェクトへの投資を通じて、農業人口の減少や高齢化による諸問題や気候変動、食の安全に対するソリューションを提供



ディストリビューション  
センター  
(物流施設)

プロジェクトへの投資を通じて、生産性の高い社会の実現や地域産業の活性化と雇用の創出に貢献



高齢者  
施設

障がい者  
グループホーム

プロジェクトへの投資を通じて、包摂的かつ安全でより住みやすい社会の実現に向けたソリューションを提供



プライベート  
イクイティ投資

投資先企業が行うイノベーションや既存事業の再活性化により、生産性向上や労働力の補完を促進  
中小企業の事業承継を支援するファンドの運営により、包摂的かつ持続可能な産業化を促進



### Governance

経営体制

取締役7名中4名が独立社外取締役／独立社外取締役を取締役会議長として起用／任意設定機関「評価委員」により業務執行取締役の人事・報酬の評価を実施／取締役会の実効性の自己評価の実施と結果の開示／実効性のある監査等委員会監査や内部監査の実施

## 会社概要(2023年3月末現在)

会社名	日本アジア投資株式会社(略称)JAIC
本社所在地	東京都千代田区九段北3丁目2番4号
設立年月日	1981年7月10日
資本金	5,426百万円
株式上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場(証券コード:8518)
従業員数	単体22名／連結43名
事業領域	プライベートエクイティ投資、プロジェクト投資
役員	取締役会長(独立社外) 川俣 喜昭 : 取締役会議長 代表取締役社長 下村 哲朗 取締役(常務執行役員) 八田 正史 取締役 大森 和徳 : 監査等委員長 取締役(独立社外) 安川 均 : 監査等委員 取締役(独立社外) 沼波 正 : 監査等委員 取締役(独立社外) 片桐 春美 : 監査等委員

- ✓ この資料（以下「本資料」といいます。）は、日本アジア投資株式会社（以下「JAIC」といいます。）の連結決算情報についての情報提供のみを目的としており、有価証券の取得その他の投資勧誘をするものではありません。
- ✓ 本資料に記載された将来に関する事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。
- ✓ 本資料に含まれる情報は全て、JAICが著作権その他一切の権利を有しており、JAICの許可無く複製したり転用することは禁じられております。
- ✓ 本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。



日本アジア投資株式会社

<https://jaic-vc.co.jp>

お問合せ先:管理グループ 岸本・丸山

[ir@jaic-vc.co.jp](mailto:ir@jaic-vc.co.jp)